

## 平成22年度に建設工事で発生した事故事例（架空線損傷事故）

### 事故概要：

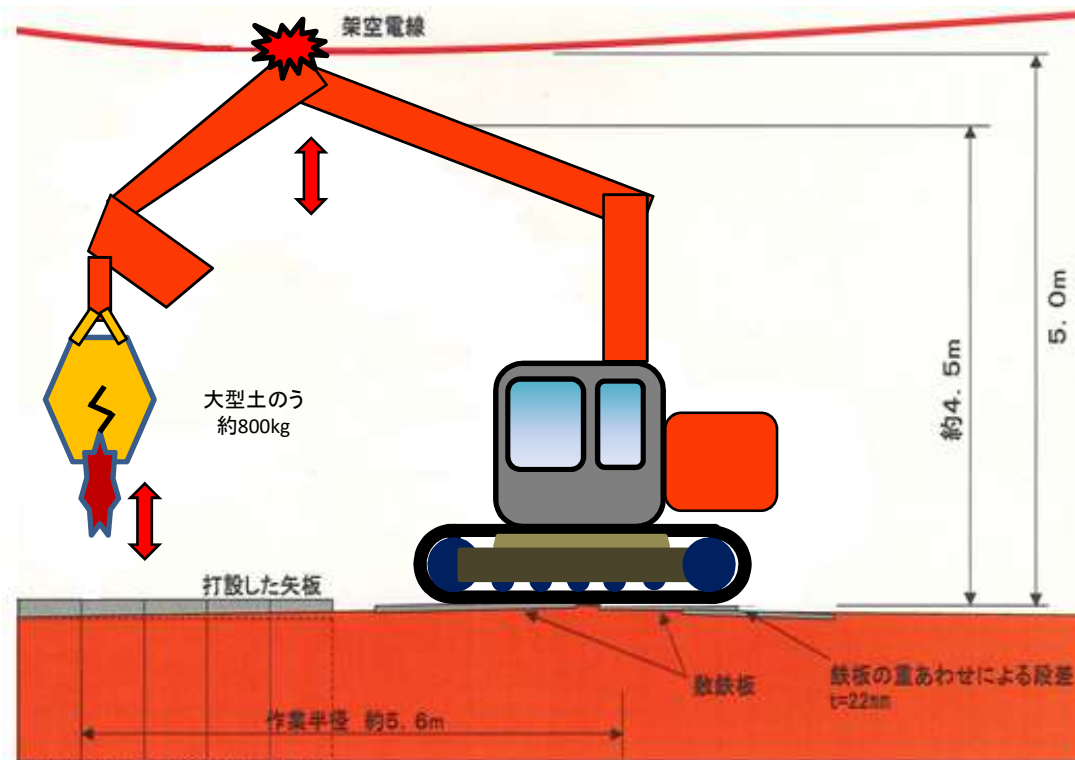
大型土のうの土砂を埋戻しに利用するため、架空線下でバックホウを用いて土のうを移動させた際、突然、土のうの底が破れ土砂が抜け落ち、その反動でバックホウのアームが上にあがり、架空線を切断した。

### 事故原因：

大型土のうを転用して使用していたことで布が傷んでいたが、布の状態の確認を怠っていた。

### 改善対策：

大型土のうを吊り上げる際は吊り上げ前に状態の点検を徹底する



分類：大型土のう、BH移動

被害状況：家屋3戸1時間20分の間停電

# 令和元年度に建設工事で発生した事故事例（飛来物・落下物による事故）

## 【事故概要】

堰堤補修工事現場にて、仮排水管設置作業を進めていた際、締切に用いる大型土のうを移動させようとBHが移動したところ、1mの高さから、その場で待機していた被災者の上に、転石が滑り落ち下敷きとなり負傷したものの。

## 【事故原因】

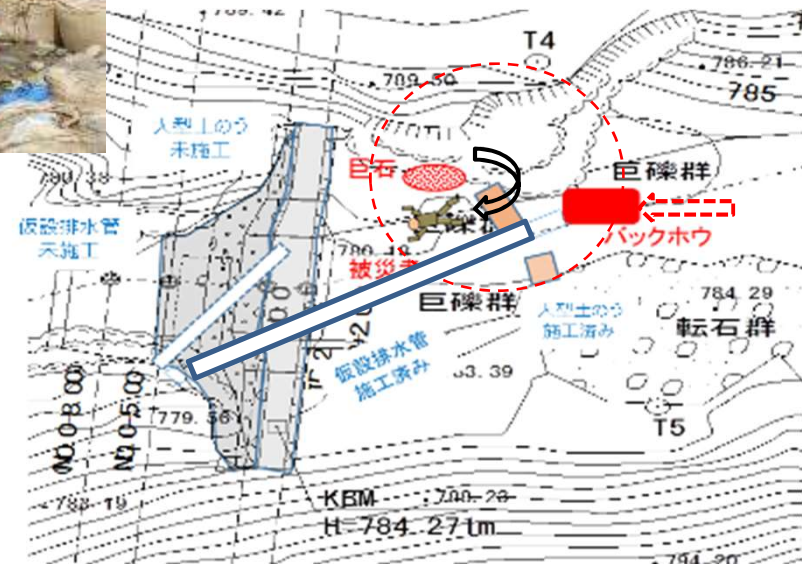
転石が多い現場にも関わらず、転石の落下、滑動等の危険性の認識が無かった。  
また、その危険性の認識が無かったため、作業員同士の声掛けも不足していた。

## 【改善対策】

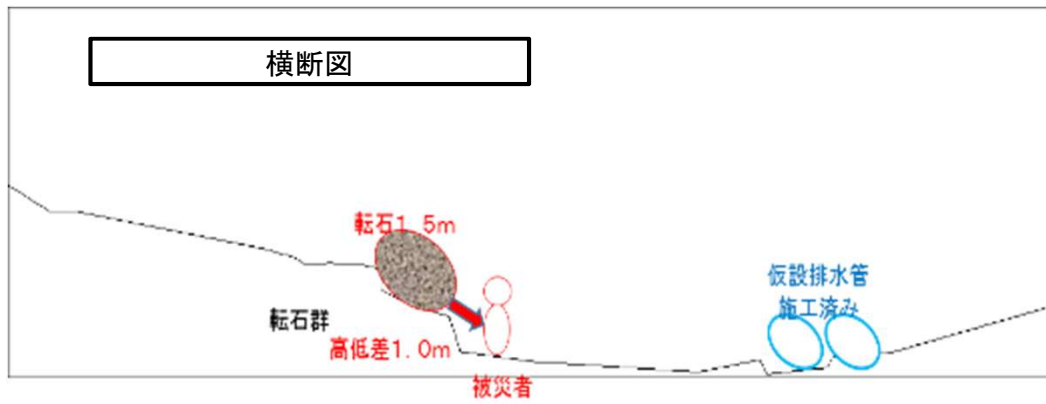
- 1) 落下しそうな転石をマーキングし、目視で確認可能とする。
- 2) 転石付近に人がいない事を確認したうえで重機を移動させる。
- 3) 危険箇所での作業は、作業員同士で声を掛け合い、安全の確保に努める。



現場状況図



横断図



【分類】大型土のう BH移動

【被害状況】骨盤骨折等(4か月の安静)

## 令和2年度に建設工事で発生した事故事例（挟み込み事故）

### 【事故概要】

バックホウで、大型土嚢吊上げ中、スリングロープの捻じれに気づいた作業員が、手を出し土のう帯とスリングロープの間に指を挟まれ負傷した。

### 【事故原因】

- ・玉掛け作業員が、玉掛けを確実にを行い、ロープが捻じれていないかの確認を怠った。
- ・同玉掛け作業員が、重機運転手に合図を送ることなく、捻じれを直そうと手を出した。

### 【改善対策】

- ・玉掛け作業員、重機運転手の間での合図を確実に行うことを徹底する。
- ・重機による荷上げ時は、作業員の退避が完了するまでは重機を動かさないようにし、重機が止まるまでは作業半径に近づかないことを徹底する。
- ・全社員を対象に事故対策安全教育を行う。

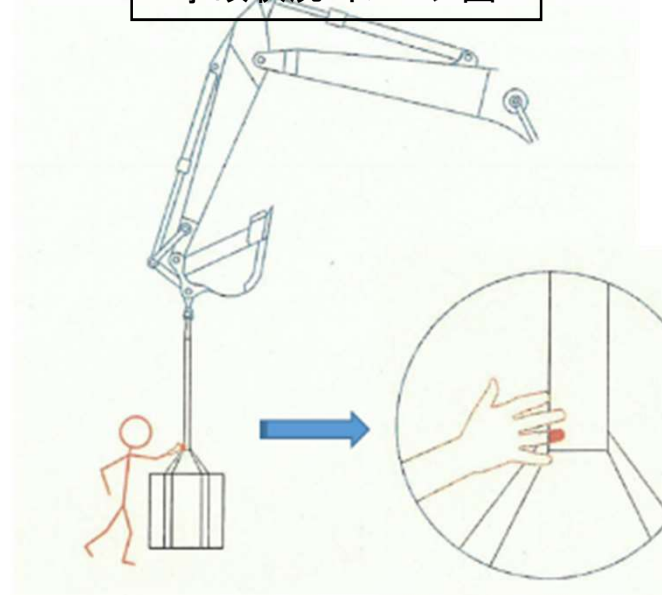


事故発生時の状況



大型土のう吊り帯とスリングロープとの間に左手指を挟まれ被災した。

事故状況イメージ図



【分類】 大型土のう 移動中

【被害状況】 業者人身 男性 35歳 左環指挫滅創・裂創（2週間の創処置局所安静）



# 令和3年度に建設工事で発生した事故事例（建設機械事故）

## 【事故概要】

河川内の仮設道路上で、大型土のうを吊上げ坂路を下っていたバックホウ(0.25m<sup>3</sup>)が、路肩でバランスを崩し転倒した。

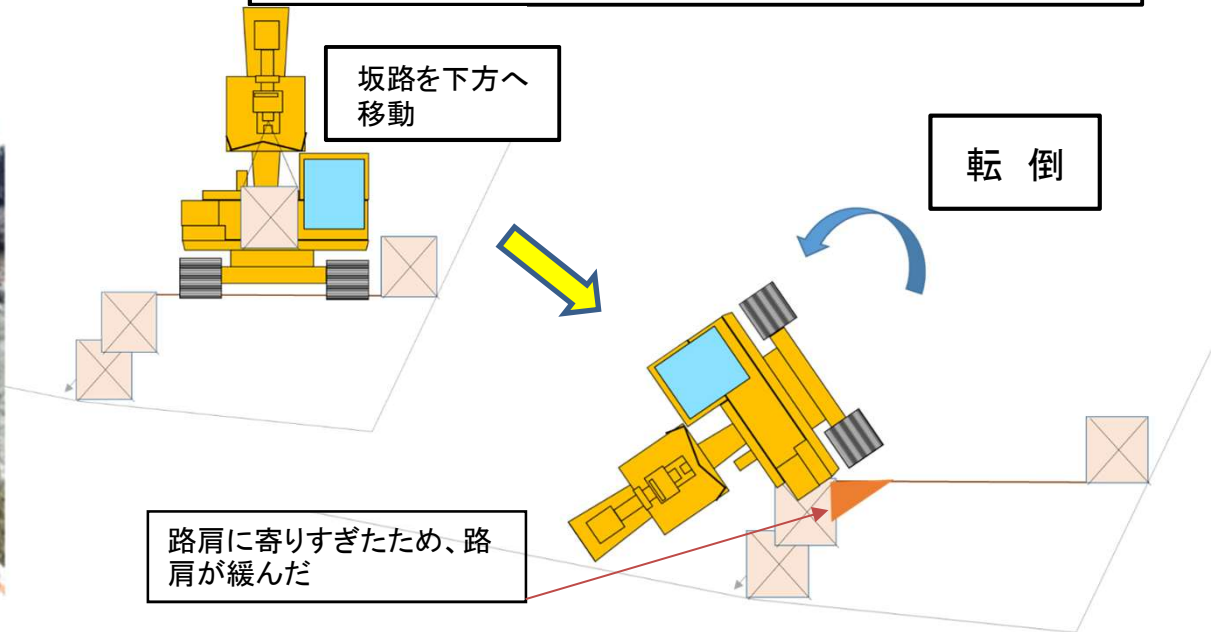
## 【事故原因】

- ・元請けが、下請けに対して労働安全衛生法等の規定に違反しないよう必要な指導を行っていないこと。
- ・定格荷重を超える大型土のうの設置作業を行ったこと。(バックホウ0.25は走行時吊上げ能力0.8t:吊り荷の大型土のうは1t以上)
- ・重機転倒の危険性がある勾配が付いた仮設道路の路肩に対して、十分な注意喚起がなされていないため、バックホウが路肩寄って走行し、これによる路面の変状がバックホウのバランスに影響したこと。

## 【改善対策】

- ・作業手順など労働者が従事する業務に関する安全又は衛生のために必要な事項について教育の徹底を図ること。
- ・建設機械の能力を超える作業を行わないことを徹底する。(バックホウを0.25m<sup>3</sup>から0.5m<sup>3</sup>とする、クレーン則第69条参照)
- ・大型土のうの積み下ろしは、平坦な場所で行うこととし、仮設道路路肩付近にトラロープを設置し、重機が路肩に寄らないようにする。(クレーン則第66条の2)
- ・改善対策は、新規入場者教育及び施工計画書(作業手順)に追記するとともに、朝礼時の危険予知活動や月に一度の安全訓練時に作業員に周知する。

## 事故現場状況写真



【分類】 大型土のう BH移動

【被害状況】 業者物損 BH転倒による損傷

## 令和4年度に建設工事で発生した事故事例（建設機械事故）

### 【事故概要】

0.7m<sup>3</sup>バックホウ（クレーン使用）にて4tダンプトラック荷台の大型土のうを吊り上げた際、吊り荷が荷台の玉掛け作業者に接触したため、作業員が荷台から転落し負傷した。

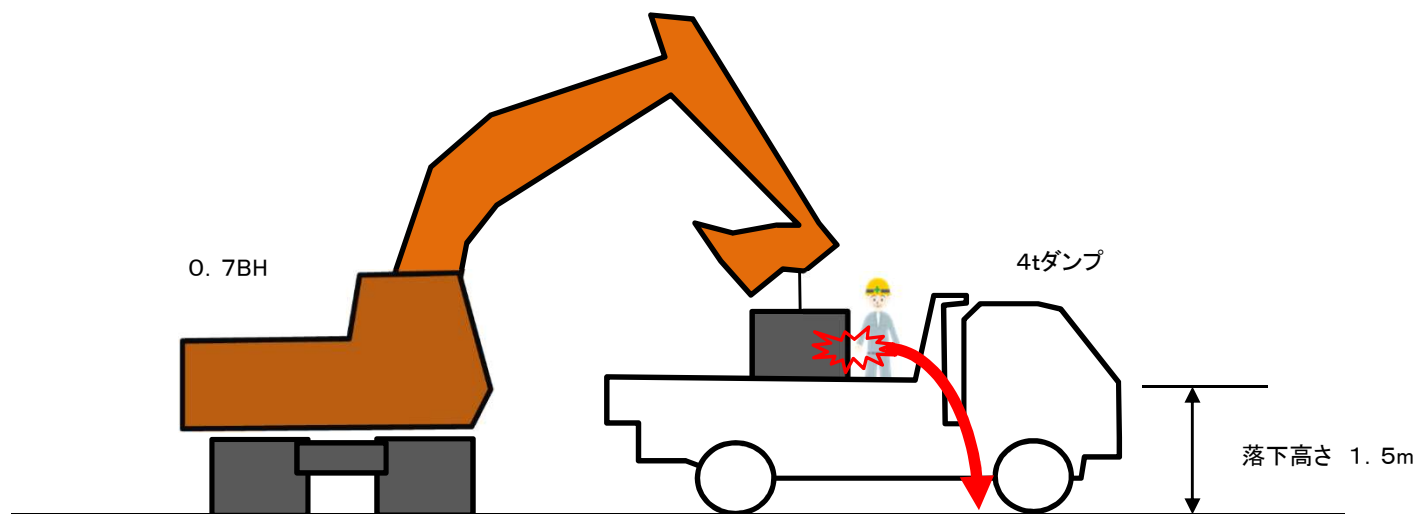
### 【事故原因】

- ・オペレーターと玉掛け作業者の合図確認が不十分だったこと。
- ・作業員が吊り荷を注視しておらず脇見をしていたこと。
- ・吊り荷から退避せず接触する位置にいたこと。

### 【改善対策】

- ・玉掛け者は必ず吊り荷から離れ、退避したのちに手を挙げて合図を送り、重機オペレーターがクラクションで応答したのち、吊り荷の移動を開始する。
- ・見通しが悪く合図が行えない状態で作業を行う場合には、監視員の配置もしくは無線機を使用し合図を行う。
- ・安全教育に類似した事故事例ヒヤリハットを加え、今回起こった事を改めて周知し、安全意識の向上を図る。

### 事故現場状況



【分類】 大型土のう BH移動

【被害状況】 業者人身 44歳 右肋骨多発骨折